

姉妹・友好都市ニュース

International Friendship Association of Ibaraki

vol.41 2003.12.22

茨木市国際親善城市協会



色画用紙やごみ袋を使った手作りの衣装で仮装をし、講師の久徳ウェンディさんとともにハロウィーンパーティーを楽しむ小・中学生の参加者=10月12日の We Are Friends! で〔本文は6ページ〕

目次

- JICA研修員のホームビジット受入、大阪大学留学生センターホストファミリープログラム 2
- 市民とJICA研修員とのふれあい交流 3
- 英語スピーチ大会、ミネアポリス市から湖の女王来茨、ホストファミリーになりませんか? 4
- コンコーディア日本語村“森の池”だより 5
- 内海町への市民訪問団、茨木市スポーツ親善訪中団員を募集 6
- 内海中バスケットボール部・サッカー部来茨、会員募集、市が内海町宿泊施設利用者に補助 7
- 姉妹都市活動室、WE ARE FRIENDS!、日本語ボランティア養成講座 8

JICA 研修員の ホームビジット受入

ラマダン中のタンザニアンをお迎えして

ホストファミリー 栖原 武士・房子

昼食を我が家で一緒に楽しもうと思っていた矢先、協会の方から、「(今回受け入れの)ムディディさんが今ラマダン中で、食事は一緒にできない。人によっては、お茶も水も駄目」という連絡が入り、そういう習慣のない私たちはとまどい、また、その上、頼みの綱の娘も当日は出勤とのこと。英語拒否性の主人と、度胸だけは満点の私と、応援に駆けつけてくれた、あまり話すことに自信はないという友人を頼りに、それに加え今にも雨模様空。心細さもこの上なし。でも、陽気な彼と出会い、タンザニアの生活、文化、ラマダン等のことを話した後、紅葉の時期でもあり、思い切って、高槻・神峰山寺へと出向きました。

彼は日本の宗教、お寺、神社などに特に興味があり、見るもの、行くところ全てに関心を示して

国際協力機構大阪国際センターのタンザニア研修員が11月15日、茨木市民の家庭でホームビジットを体験しました。この研修員は、茨木市で地方自治体行政研修を受講している13名で、日本の生活や食べ物に触れることができ感激していました。今回は、受け入れ家庭の栖原さんに感想を書いていただきましたので、ご紹介します。

いました。我が家に帰ってきてからも、主人と共に、お仏壇に手を合わせ、線香、ローソクに灯をともし、一生懸命、見よう見真似で拜んでいました。はてさて、何をお祈り、お願いしていたのでしょうか？

彼からのお土産のマンゴーピクルスとコーヒー。ピクルスは独特の匂いと激辛で目から涙です。また、私たちもいつかタンザニアに行くようなことがあれば、今度は反対に訪問させていただきね、とお約束をして、楽しい貴重な一日を終えました。



左側が栖原ご夫妻

大阪大学留学生センターでは、留学生及び地域社会がお互いの文化・習慣を正しく認識し、相互理解を深めることを目的として、「大阪大学留学生センターホストファミリープログラム(OHP)」を実施しています。これはホームステイ(宿泊)ではなく、交流回数、日時、内容は、留学生とホストファミリーが話し合って決めるという、双方にとって支え合い、教え合う関係を自然な形で提供できるプログラムです。

本協会では、このプログラムに賛同し、ホストファミリーの登録をしていただいた会員の皆様に、大阪大学で学んでいる留学生の受入をお願いしております。

今回は、今秋から約1年間、ホストファミリーをお願いした森さんに、大阪大学で行われた「出会いの会」での様子などを書いていただきました。

大阪大学留学生センター ホストファミリー

がんばり屋のガビさん

ホストファミリー 森 玲子

「このお城、知ってますか？」とガビさんが、ルーマニア全土の観光地図を指差しながら私の顔を見ました。「エッ、有名な観光地？」と聞き返すと、微笑みながら「ド・ラ・キ・ユ・ラ」と。「そうそう、ドラキュラの出身地はルーマニアだったわね」、まだ出会って5分とは思えない楽しいひとときを味わって話し込んでいました。

突然、「もう、残り5分で開会式が始まります



歌やダンスに笑いが絶えず

通訳ボランティア(IIN) 木村 忠

今年のふれあい交流の10月11日の一日は、アツという間に過ぎた感がありました。

JICA研修員の出身国は、ヨルダン・グアテマラ・トルコ・モンゴル等の14ヶ国。バスで市役所を出発し、市立中央図書館、国立民族学博物館、JICA大阪国際センターを訪問しました。

この間研修員たちは、覚えてたの日本語を片言で熱心に語りかけ、日本人達はそれなりの英語で真剣に対応していました。これでは時間はいくらあっても足りません。グループに分かれて、余興を懇親会で行うことになり、昼食時間を割いて練習しました。このため、研修員と日本人の連帯感が増していきました。この結果、懇親会本番での歌の合唱やダンス等では、チームワークの成果が見事に生かされていました。和気あいあいの笑いが絶えない会場では、人々はいつまでも別れを惜しんでいました。

今回のふれあい交流の成功には、ネパール王国からの研修員Kさんの存在が見逃せないと思いました。Kさんは素晴らしい人なつつこさと明るさで人々に溶け込み、皆さんに元気を与えていました。

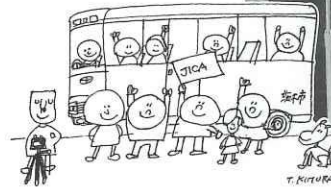
市民とJICA研修員との ふれあい交流



中央図書館を見学



懇親会で見事な踊りを披露



留学生に日本の家族を！
ホストファミリーに多文化交流体験を！

ミリープログラム

ので、そのくらいで…」という係の方の声に時計を見ると、1時間近く過ぎていました。

2日後に、我が家にガビさんが来られました。絵ハガキを見せながら、前回の地図の全土を紹介するガビさんの姿に、夫も私もニッコリ！宿題があるそうで、そのお手伝いをしました。「私は、ルーマニアからきたガビです。高校の教師をして、地理学を教えています。半年、日本語を学んだ後は、大学で社会心理学を勉強しています。2年前に、日本に研修に来て、東京・鎌倉・京都・広島へ行きました。どうぞよろしくお願ひします」

こんな長い自己紹介文を、ローマ字で綴り、何回も何回も発音練習しました。紙を見て話すのではなく、暗記したいとのことで、「がんばり屋さんだナァ」と感じた一日でした。

その後、電話をしてみると、もう、自己紹介はパーフェクトだったようで喜んでいました。

さて、次回は、どんな一日になるのでしょうか？がんばって、ガビさん!!



ルーマニアからの留学生ガビさんと森さん(左から)

第20回 英語スピーチ大会



中学生の部第1位の宮原さん

11月3日、第20回目となる「英語スピーチ大会」を開催しました。指定暗唱文“Her Dream Came True”を暗唱した中学生15人と、自由なテーマで自分の思いをスピーチした高校生3人の堂々とした、表現力豊かな声が会場に響き渡りました。



出場者全員で記念撮影

〔中学生の部〕

- | | | |
|-----|-----------|---------------|
| 第1位 | 宮原 莉里子 さん | 茨木市立太田中学校 3年生 |
| 第2位 | 小野 佳織 さん | 茨木市立天王中学校 3年生 |
| 第3位 | 宇野 田鶴子 さん | 茨木市立平田中学校 3年生 |

〔高校生の部〕

- | | | |
|------|----------|---------------|
| 最優秀賞 | 松井 香織 さん | 同志社女子高等学校 3年生 |
|------|----------|---------------|



高校生の部最優秀賞の松井さん



市長・議長を表敬訪問

10月12日、大阪で行われた御堂筋パレードに参加するため来日した、ミネアポリス水上祭の湖の女王、サンドラ・ブシノビッチさんと両親、水上祭の提督が、10月10日に茨木市を訪れ、山本市長、川本市議会議長を表敬訪問しました。

※水上祭(アクアテニアル)は、姉妹都市・アメリカ合衆国ミネソタ州ミネアポリス市で行われている恒例の夏のお祭り。毎年、その年の湖の女王が選ばれます。

姉妹都市・ミネアポリス市から 湖の女王が来茨

ホストファミリーになりませんか？

協会では、姉妹・友好都市からの訪問者やJICA大阪国際センター研修員などを家庭に受け入れ、家族とともに生活するホームステイや外国の方を家庭に招いて交流を深めるホームビジット(日帰り)を通じて、日本での生活習慣をはじめとする様々な日本文化に触れる機会を提供していただけるホストファミリーを募集しています。

ホストファミリーの登録に際して、制限はありませんが、善意かつ無償で責任を持ってお世話していただける方をお願いしております。

詳しくは、事務局までお問い合わせください。



立ち寄った小学校の石碑の前で

「ありがとう」の言葉に感動

キャンプカウンセラー 内田 智子

“森の池”は、ただただ野原が続く大自然の中にあり、夜になると満天の星と月の光が池に反射してとても美しい所でした。

私はそこで30名のスタッフと共に日本人カウンセラーとして約2ヶ月間、アメリカの学生達と生活を共にしました。朝起きて夜寝るまで日本語だけを使い、日本語の授業や文化を学ぶクラブ活動等、たくさんのカリキュラムが用意されていました。ここに来る子どもたちは日本に対する関心度が高く、日本のアニメや歌をよく知っており、かえって私が教えられるほどでした。

私は言葉のクラスを担当していました。全く読み書きのできなかった子が2週間のプログラムを終え、帰るころには、ひらがなの読み書きができるまでになり、「先生、ありがとう」と言ってくれた時は、本当に嬉しく感動しました。また、日

曜日には水風船や水鉄砲をたくさん用意して、水の大運動会をしたり、期間

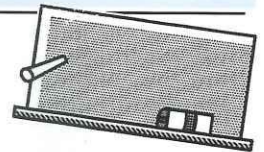


共に過ごしたカウンセラーとパチリ(左端が内田さん)

中一度だけでしたが、バスを借りて片道1時間くらい走った所にあるショッピングセンターに行ったりしました。この時ばかりは映画を見たり、買い物をしたり、皆、普通の子どもに戻っていました。そして、7月4日の独立記念日には全てのキャンプ地から3千人ほどが集まり、盛大な文化交流が行われました。

今回の貴重な体験を通して、私は日本に住んでいるながら、あまり日本を知らないことにも気がきました。今後、もっと日本のことを知り、外国の人にそれらを紹介できる場をたくさん持ち、交流をより一層深めていきたいと思っています。

コンコーディア 日本語村 “森の池” だより



毎年、アメリカ・ミネソタ州では、各国の言語や文化が学べるキャンプが開かれ、全米から夏休み中の子どもたちが各語学村へ集まってきます。

今年の夏は、茨木から内田智子さん、江尻優美さんが日本語村“森の池”のキャンプカウンセラーとして参加しました。

お母さん代わりの6週間

キャンプカウンセラー 江尻 優美

アメリカ合衆国ミネソタ州にあるコンコーディア日本語村“森の池”において、私はカウンセラーとして約6週間を過ごしてきました。

森の池は、小学生から高校生までのアメリカの子どもたちが、日本語を勉強するために、夏休みの間キャンプをする所です。“森の池”という名前通りの通り、キャンプサイトは野生のリサウサギがいる森の中に位置し、カヌーができる湖もありました。子どもたちは、自然の中で団体生活をしながら、言葉の授業やクラブ活動を通して、日本語

と日本文化を学んでいます。

最初の2週間、私は

11歳前後の子どもたちと同じキャビンで生活しました。まだ幼いため、食事の時は野菜を食べなかったり、身支度を整えるのに時間がかかったり、世話が焼けて大変でしたが、お母さん代わりの気持ちで接すると子どもたちもなついてくれて、とてもかわいかったです。始めは日本語が殆んどわからなかった子が、段々とひらがなを覚え、キャンプが終わる頃には全部の文字を覚えて読めるようになった事や、ホームシックで食事あまり食べていなかった子が、キャンプ生活に慣れ、「来年もまたここに来たい」と言い出すほど“森の池”を楽しむようになった事など、子どもたちが日々成長していく様子を目の当たりにできたことは、とても嬉しい体験でした。

キャンプ生活ということで大変な面もありましたが、アメリカの子どもたちと寝食を共にするという貴重な経験ができ、思い出をたくさんつくることができました。



日本文化を学ぶ子どもたちと(後部が江尻さん)

そうめんの「箸分け」も体験

内海町への市民訪問団



交替で「箸分け」を体験



「岬の分教場」で昔懐かしい気分



オリーブを記念植樹

11月18日、絶好の旅行日和に恵まれた市民訪問団一行22名は、バスで茨木市役所を出発しました。

紅葉のピーク時とあってか、姫路港から乗船したフェリーは超満員でしたが、何とか全員席を確保し、お弁当を食べることができました。

「日本三大溪谷美」である寒霞溪は、今夏の長雨と秋の冷え込みがなかったことが影響し、見事な紅葉という訳にはいきませんでした。四方指から見える内海湾の眺めは最高でした。

歓迎の横断幕で出迎えを受けた内海町の表敬訪問、茨木市所有地でのオリーブ記念植樹のあと、ホテルに到着。最上階の展望露天風呂で一汗流し

たあとの懇親会では、内海町の吉岡助役と山本議長、町の職員の方にも来ていただき、若林団長をはじめお互いに親睦を図りました。

翌日は、岬の分教場を見学したあと、「二十四の瞳映画村」で田中裕子主演の映画も鑑賞。小豆島名物のそうめん工場では、「箸分け」を体験させてもらうなど、また、まる2日間、バスに同乗して町のガイドをしていただいた内海町総務課の職員の方をはじめとする内海町の皆さんの温かきもてなしを受け、普通の旅行では味わうことのできない思い出深い交流の旅となりました。

(事務局随行記)

茨木市スポーツ親善訪中団員を募集

- 期 間 平成16年3月25日(木)～30日(火)、5泊6日
- 行 程 大阪～上海(1泊)～安慶(3泊)～上海(1泊)～大阪
- 内 容 友好都市・中国安慶市の青少年との水泳、卓球の親善交流試合等
- 対 象 市内在住・在学の中学生、先着30人
- 参加費 約12万円
- 募集期間 1月26日～2月9日
- 申込先 協会事務局 (TEL.620-1604)



前回訪問時の卓球の親善試合



内海中学校

バスケットボール部・サッカー部 来茨



7月5日(土)、6日(日)に内海中学校の男子バスケットボール部が来茨し、茨木市内の中学校と交流試合を行いました。

このバスケットボールの交流試合は今回が初めてで、緊張で堅くなっていた動きも次第にスムーズになり、体育館中に張り詰めていた空気が、一気に熱気に満ち溢れ、活発な交流となりました。

また、その一週間後の7月12日(土)、13日(日)

には、内海中学校サッカー部が来茨し、市内中学校と交流試合で汗を流しました。

2日間とも、雨が降ったりやんだりのあいにくの天気でしたが、悪天候を吹き飛ばす“熱い”交流試合となりました。



中学校生活最後の交流合宿

内海町立内海中学校

男子バスケットボール部主将 城 有斗



僕にとって茨木への訪問は、今回の交流合宿で3回目です。過去2回を振り返ってみると、友達との温かいふれあいが印象に残っています。しかし、今回は中学校総合体育大会を控えた、バスケットボール競技を通しての交流です。それだけに、今回の交流は真剣さが違います。

私たちは「FOR THE TEAM, FOR MYSELF」を目標にして、2日間で4校の中学生と試合をさせていただきました。

まず驚いたのは、体育館です。広さも中の施設も本当にすばらしく、そこで試合ができるのは、とてもうれしく思いました。また、試合をしてみると、それぞれの選手が自分の個性を生かしてプレーをしているのでビックリしました。僕たちも

自分たちの力を精一杯だせたので、とても充実した試合ができたと思います。

また、この合宿の目的は「チームの団結を強める」ことにもありました。チームメイトと寝食を共にすることで、お互いをより理解し合えたと思います。

この合宿に協力してくださった茨木市の職員の皆様、各校の先生方、生徒の皆さん、保護者の方々に対して感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



自熱した交流試合(市立東市民体育館で)

● 会 員 募 集 ●

本協会では、姉妹・友好都市をはじめ、国際交流に興味を持っておられる方々の入会をお待ちしています。

会員には、年2回発行する協会報の送付や、協会が催す交流行事のご案内をいたします。

〈年会費〉 個人会員 (一般) 2,000円
(学生) 1,000円

〈申込先〉 協会事務局(TEL.620-1604)

市が内海町宿泊施設利用者に補助

姉妹都市内海町との交流促進を図るため、内海町の宿泊施設を利用する市民の皆さんに対し、宿泊費用の一部を市が補助する制度があるのをご存知ですか？

補助額(1泊)は、中学生以上3,000円、小学生1,500円で、1人につき年間2泊分まで補助されます。詳しくは、市民活動推進課又は茨木市ホームページへお問い合わせください。

Ibaraki Intercultural Network(IIN)

姉妹都市活動室

姉妹都市活動室では、英語力や国際感覚の向上、異文化理解のため、ゲストスピーカーを招いて、英語によるスピーチを聞いたり、ディスカッション等を行っています。また、JICA研修員、阪大留学生や茨木市近隣に在住の外国人との交流を楽しんでいます。

興味のある方は、気軽に見学に来てください。

- ・例 会 時間：第1木曜日 午前10時～正午
第3土曜日 午後2時～4時
場所：クリエイトセンター

※変更になる場合があるため、下記協会事務局にお問い合わせを

- ・年会費 正会員：2,000円（18歳以上）
準会員：1,000円（中・高校生）

We Are Friends!

英語に
親しもう

英語で自己紹介やクッキング、ハロウィーンパーティーなど、毎月違ったテーマについて、ゲームやクイズを使って、講師の久徳ウエンディさんと一緒に英語に親しむ“*We Are Friends!*”は、原則第3日曜日にクリエイトセンターで行っています。小学校4年生から中学生まで、無料で参加できますので、英語を習ったことのない人もぜひ来てください！



日本語

ボランティア 養成講座

地域在住外国人への
日本語習得支援のために

右記のとおり、受講生を募集します。

主催：茨木市実用日本語学習会

日 時：平成16年1月30日、2月6日・13日・
20日・27日、3月5日、4月9日・
16日・23日、5月7日・14日・21日
(全12回)

毎週金曜日 午後1時30分～3時

場 所：茨木市役所南館8階 国際交流サロン

費 用：茨木市国際親善都市協会会員は無料
非会員は、3,000円

講 師：澤田幸子先生
(京都大学留学生センター非常勤講師)

募集人員：45名(先着順)

問合せ／申込先

新山 茂樹(TEL.634-3291)

協会事務局(TEL.620-1604)

寄 附

本市の国際交流事業の推進のためにと次の方から
温かいご寄附をいただきました。ご厚志に心からお
礼申し上げます。(5月～11月、敬称略)
〈協会へ〉11月 茨木ライオンズクラブ(10万円)

編集・発行

茨木市国際親善都市協会

〒567-8505

茨木市駅前三丁目8番13号

茨木市市民生活部市民活動推進課内

TEL.(072)620-1604 FAX.(072)622-7202